

幼児の身体表現遊びにおける言葉がけに関する研究  
－身体表現遊びのための指導シートの作成をめざして－

塩 崎 みづほ

A Study on the teacher's words for children's body expression play  
Aiming to create body expression play for instruction sheet

Mizuho shiozaki

## はじめに

身体表現遊びは、幼児期の発達過程から見て、日常の保育の中に取り入れたい活動のひとつである。喜怒哀楽を表出する乳児期から、親や先生をみてまねっこする模倣へと進み、自分の思いを自分の体をダイナミックに使って表現する過程へと進んでいく、まさに体での表現を行っている時期だからである。平成 29 年告示の幼稚園教育要領において、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の 10 項目「豊かな感性と表現」において「心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる」とある<sup>1)</sup>。幼児期に、いかに自分の体を使って表現することができ、そしてその楽しさを十分味わう活動を行うことで、小学校での「表現運動及びダンス」さらには中学校、高校「ダンス」へとつながっていくものだと考える。模倣や変身を楽しむ幼児期にこそ、たくさんの心動かされる出来事に触れ、そこからイメージを膨らませ、自分なりの表現を試し、そして保育者や友達と共感しあう活動を行うのに、絶好の時期ではないだろうか。乳幼児期における身体表現遊びには、音楽やリズムに乗って動く表現もあれば、模倣を楽しむもの、さらには、一人ひとりの身体表現を引き出し自己表現力を高めていくもの、そして、友達と共感し共創していく活動と、さまざまな活動がある<sup>2)</sup>。取り入れ方にも、日常保育の合間に入れ込むこともできるし、設定保育として行うこともできる。筆者が目指しているのは、一人ひとりの身体表現を引き出していくこと、そこから、友達と共感し共創していく活動を設定保育として取り入れる活動が広まることである。今回の改訂にもあるように、小学校とのつながりを考えると、自発的に仲間と共感し実践する活動は重要になってくると考えるからである。また、保育者が設定保育としての身体表現活動の実践経験を積むことで、どんな保育活動場面においても対応することができると考えられるからである。しかしながら、学生たちにアルバイト先や実習先の園において、身体表現遊びを見たことがあるかを聞くと、1 割程度の学生にとどまってしまう。身体表現遊びの実践を広く目指していくためには、保育者養成校において、その特性に触れ、楽しさを味わい、そこから指導法を身に付けていくことが重要ではないかと考える。

そこで、筆者は前掲<sup>3)</sup>において、身体表現遊びにおける指導の流れと言葉がけの分類表を作成し、それをもとに指導実践を行うことで、ある程度の効果があることがわかった。しかしながら、指導となると言葉がけがわかってはいるものの、どの場面で具体的な言葉がけを、どのタイミングで行うのが効果的なのかが、指導案だけでは難しいということも見えてきた。そこで、保育者の言葉がけや動き、用意するものなどを細かく記入できる指導シートがあるとよいのではないかと考えた。小松・梶は<sup>4)</sup>、身体表現の効果的な指導法として、保育・言葉掛けプランニングシートの作成を試みている。それを参考に、記入欄の簡素化、言葉がけ分類表の言葉が挿入されているかといった点について検討し、作成を

試みた。

そこで本研究では、作成した指導シートの効果について検証し、さらに課題点を見つけ、身体表現遊びの指導の一助となる指導シートの完成を目指すため、その活用法、改善点、指導法について探ることを目的とした。

## 研究方法

- 1) 学生たちによる身体表現遊びの指導実践において、事前に身体表現遊びのための指導シートの記入をし、それに基づいて指導実践を行った。
- 2) 指導実践後、指導シートについて役立ったかどうか質問紙調査において、理由を自由記述してもらった。その結果から、学生にとって指導シートがどのように活用されたのか探る。
- 3) 学生が記入した指導シートから2グループ選び、改善点について吹き出しにてコメントを付けた。また、実際の指導シーンでの言葉も1グループ分抜き出し、そこから記入時の問題点について考察した。
- 4) 上記2) 3) の結果と考察から、指導シートの効果と改善点、指導法における課題点について検討する。

## 授業の概要

幼児体育の授業は、本学幼児教育学科Ⅰ部（昼間）2年生、Ⅱ部（夜間）2年生の必修科目であり、通年の演習授業である。筆者は、二部（夜間部）の2年生の2クラスを担当している。授業内容は、準備体操として幼児の体操、ダンス、フォークダンスを行い、その後その回のテーマとなる運動遊びの実践、その遊びの特性について話し合い、発達段階に見合った指導の仕方についてディスカッションし、最後に指導者がまとめを行っている。とりあげる内容として、鬼あそびのように用具を使用しない遊びから、フープや縄など用具を使った遊び、巧技台、サーキット遊び、身体表現遊びを行っている。今回の指導実践は、身体表現遊びの中で行った。身体表現遊びの内容として、表1のように10回行った。

表1 身体表現遊びの授業内容

回	テーマ	内容
1	新聞紙を使って	新聞紙を使った表現
2	空想の世界	忍者ごっこ・宇宙の旅
3	絵本から作品へ	絵本を題材に、運動会作品、舞台作品を実践
4	作品創作	絵本を題材にグループで創作
5	発表会	絵本作品発表会
6	指導法実践	ウォーミングアップや設定保育で生かせる題材などを筆者が指導者として実践
7	指導法講義とDVD視聴	指導に大切なこと、子どもとの実践のDVD視聴
8	指導ノート作成と練習	グループに分かれ、指導ノートの作成及びリハーサル
9	指導実践	1グループが先生役、他は幼児役になり指導実践発表
10	発表とまとめ	良かったグループの発表と、総評、質問紙記入

第1～5回までは、実技を通して学生たちが表現を楽しむこと、豊かな表現ができるための体づくり、さらには作品創作の過程を体験することを行った。第6回以降から、指導法の学習へと進めた。第7回の指導法講義において、表現遊びの指導の流れ、その流れに沿った言葉がけの分類表（資料1）、指導シートの書き方について説明をした。また、幼児が実際に身体表現遊びをしている映像を見せ、子どもの動き、反応、保育者の問いかけ、雰囲気作りなどについて学びを深めるため視聴した。指導シートの作成は、8回目の授業で実施。3～4名のグループに分かれ、持ち時間10分。対象年齢は5歳児。好きな題材を選び、流れを決め、言葉がけ、保育者の動き、幼児の動き、環境構成などを指導シートに記入した。題材は、今までの実践例の簡略指導案を配布し、その中から選んで行ってもよいこととした。質問紙調査は、10回目の授業時にその場で配布、回収を行った。

## 結果と考察

### （1）質問紙調査の結果と考察

調査日：2017年7月31日

対象者：幼児教育学科Ⅱ部（夜間部）2年生 80名 内、有効回答数66名

質問内容：①指導法の授業を受けて役立ったことについて選択肢より3位までの順位をつける

②指導シートは役立ったか（2択）その理由について自由記述

③指導シートの改善点、もっとこうした方がよい点について自由記述

④実際に指導を試みた感想を選択肢から最も近いものを2つ選ぶ

① 授業を受けて役立ったことについて7択の中から3位まで順位をつけてもらった。

（表2）「色々な題材の実技を受けたこと」がよかったと回答している人数の割合が最も高かった。身

表2 授業を受けて役立ったことは（n）

体表現遊びの実際を、見たことや経験した記憶がない学生が多かったため、まずは体験してみると考え実践してみたいところ、その大切

	1位	2位	3位
色々な題材の実技を受けたこと	19	9	8
子どもたちのビデオを見たこと	9	5	7
指導の流れについての講義	8	10	10
言葉がけの分類表を示してもらったこと	3	5	4
指導シートを書いたこと	3	6	7
指導をやってみたこと	12	17	11
仲間の指導を受けたり見ることができたこと	7	10	13

さが明らかになったといえよう。次いで、「指導を実際にやってみたこと」「仲間の指導を受けたり見れたこと」であった。授業を受けただけでは指導の仕方まで気付くことができないため、やはり指導実践は保育者養成の授業内容として大切な事だろう。その点を学生たちが、強く感じる事ができていることから、授業内容として効果があったとみることができる。次に「子どもたちのビデオを見たこと」があ

がっている。実際に筆者が幼児を指導している場面、販売されている身体表現遊びのDVDからのものを抜粋し視聴した。指導者の動き、声のトーン、指導者の問いかけに対して子どもたちが実際にどのように反応し、動くのかを見ることは、身体表現遊びの可能性や意義をくみ取る一助になると考えている。本来は、実際の子どもの活動を見たり、指導したりすることが望ましいが、それは大変困難なため、映像を見ることで学びを深めてほしいと考えている。この視聴は、興味深かったようであり、効果があったとみることができよう。「指導の流れについての講義」、「言葉がけの分類表を示してもらったこと」などに関しては、やや低めの評価であった。3つ選ぶという選択だったため印象が薄かったというのもあると思うが、理解しにくかったということもあったのではないかと。この点の説明についてもっと理解しやすく、しっかりと記憶に残るような内容にしていくことが大切だろう。

- ② 指導シートが役立ったかどうかについて、「はい」「いいえ」で回答を求め、その理由を自由記述してもらった。全員が「はい」という回答であり、指導シートの効果があったことがわかる。自由記述の理由から言葉を抽出し、カテゴリー化してみると、もっとも高い回答が、「指導の流れが理解できる」(34名)というものであった。流れを理解することは大切であるが、指導案で補えることであるため、この指導シートを十分に生かし切れていなかったともみることができる。2番目に多かった回答は、「書き方の練習になった」(10名)であり、指導内容、順序などを記述するという活動が初めてであったため、こうした回答が多かったのだろう。3番目には、「指導者の動きや子どもの動きを記入できたのでやりやすかった」(7名)であった。子どもの予想される動きについては、記入できていないグループがほとんどであったが、こうした点を記入しなくてはいけないということに、気付けたという点に関しては、効果のあるものだったとも考えられる。次に、「見直したり、確認したり、改善したりすることができた」(6名)、「言葉がけを考えることができた」(6名)であった。指導シートと指導案との大きな違いは、実際という言葉がけの案を丁寧に書き込めるところであり、身体表現遊びならでの問いかけ、言葉がけをある程度セリフとして考えておくということを強調している。しかしながら、この点の回答が低いことから、言葉をきっちりと考える点にまで至らなかったことが読み取れる。具体的な言葉がけを、幼児の予想される動きと照らし合わせながら、しっかりと考えることで、幼児にとって楽しい活動、より内容の濃い活動になるのである。その点を学生へしっかりと伝え、すべてとまではいなくても、この言葉、この問いかけは絶対に必要であるという言葉は書き込むよう指導していく必要がある。指導シートを生かし切れなかったのは反省点である。

- ③ 指導シートの改善点についての自由記述では、質問の仕方に問題があり、シート自

体の改善点をあげてくれたもの（9名）と、自分たちが書いたシートの改善点をあげたもの（26名）とに分かれてしまった。筆者は、指導シート自体の改善点を聞きたかったので、質問の仕方を考え直す必要がある。一方で、自分たちが書いたシートの改善点を聞くことで、記入時の難しかった点が浮き彫りになったともいえる。自分たちが書いたシート自体の改善点として最も多かったのが、「言葉がけをもっと丁寧に書けばよかった」（11名）ということだった。このシートの特徴である、子どもとのやりとりも含めた問いかけ、言葉がけを丁寧に書けなかったことで、スムーズに進行できなかったことが伺える。「子どもの反応とそれに対応する言葉がけを考えておくとよかった」という回答があり、この点に気付けた学生がいることは、喜ばしい点でもあり、この点を指導シートへの記入時にもっと指導しておくべき点であるともいえよう。次に、「子どもの動きを予想することが必要だった」（8名）という回答が多くあげられた。子どもの動きをいくつか予想することは、伝えてあったもののやはりシートへ記入する際、かなり少なかったのが現状である。予想することは難しいが、こんな反応があるだろう、こう持っていきたい、という指導者側の予想や見通しを持つことの大切さに気付けた点は大きい。そして、指導の際にもっと丁寧に伝える必要があることも明らかになった。次いで、「もっと詳しく書くべきだった」（8名）という回答があげられた。その詳しさは、流れであったり、音の出し方であったり、環境構成であったりと箇所が明記されているものと、全体を指しているものがあるものの、丁寧に書くことで指導の流れが明確になり、進行がスムーズになることに気付いたものと思われる。

指導シート自体の改善点では、「子どもの動きの予想の欄の幅を広くしてほしい」、「もっと枠を細かく分けてほしい」、「1枚続きになるよう印刷に配慮がほしい」、「分担を書く欄が欲しい」、「場所や環境構成の欄がほしい」といった意見があげられた。なかには、「音楽、備考という欄があったので、メモもできてやりやすかった」という回答があり、自由に使うことのできる欄があるのも大切だということがわかった。

- ④ 実際に指導してみた感想として最も近いもの2つを、7つの選択肢から選んでもらった。（表3）一番多かったも

表3 指導した後の感想（n）

のは、「指導の言葉がけが難しかった」（39名）であった。指導シートの改善点でもあげられていたように、言葉がけをしっかり考えることで、活動内容に広がりが出てくることに気付いた学生が多いことがわかる。次

指導の言葉がけが難しい	39
指導の流れを組み立てるのが難しい	29
雰囲気作りが難しい	29
やることが多くて大変	5
楽しくできた	5
表現を見るのが楽しい	7
その他	3

いで「指導の流れを組み立てるのが難しい」(29名)、「雰囲気作りが難しい」(29名)が同数であった。指導の流れも表で示し、説明をしたものの理解し取り入れられたと実感している学生が少ないことがわかる。指導方法を改善する必要がある。雰囲気作りは、やはり音楽や環境構成の仕方、指導者の声のトーンや動きにかかってくるものである。雰囲気づくりに気付いたことだけでも、効果はあったとすることもできよう。少数ではあったが、「表現を見るのが楽しい」(7名)、「楽しく出来た」(3名)、といった肯定的な意見もあげられていた。やはり、全体的に指導の難しさを感じている学生の多いことが伺える。また、「やるが多くて大変」(3名)、という回答は少数であった。グループで行ったため音楽担当、動きの見本担当など、分担することができたのがその理由と考えられる。「その他」の意見では、「子どもじゃなかったからやりにくかった」(2名)、「声を通らなくて大変」(1名)、「自由に好きなものという指導だとイメージすることができない子どもたちには難しく、絵か本で見せることも必要だと思った」(1名)であった。この意見は、実践したからこそ、仲間の指導を受けたからこそ出てきた回答であり、こういった気持ちが保育者になる上で必要なことだろう。こうした意見は、学生たちに還元し、授業を行った意義について伝えることが大事だと感じた。

## (2) 指導シート観察による結果と考察

作成された指導シートと、実際の指導シーンでの言葉を抜き出し、記入時の問題点、シート自体の改善点、課題について考察する。(資料2、3、4)

指導シートの記入においては、指導シートの記入例を配布し、シートを作成する意図、記入するうえでの注意事項について説明し、グループで1枚仕上げるようにした。記入する時間は、1コマ(90分)とり、実際に記入→指導の流れ・言葉がけに沿って動いてみる→修正、を繰り返し行うように指導した。教員は、巡回しながら記入の様子、アドバイスをを行った。実際に指導案さえもまだ記入したことのない学年ということもあり、なかなか作業自体が進まない、わからないといった学生が多く、巡回しながらアドバイスしても細かいところまでいきつかないグループが多かった。ある程度、よく書けているグループは少数であり、ざっとしか書けていないグループの方が多かった。1グループごとに提出し、こちらが採点し、見直すという時間が取れなかった結果、思うようなシートができているグループはなかったといえる。まずは、この点が課題である。

比較的良好に書けていて、指導の方法も工夫しているグループの指導シートと実際の指導の言葉の抜き出し表を参考に記入時の問題点を見つけ、シートの改善点、指導法の課題点について考察を行った。

指導シートは一見、全体の流れを表す言葉や動きなどが書けているものの、指導実践のビデオを見ると、幼児役の学生の動きが悪い。指導者は、指導シートにある言葉をほぼ同じように話しており、声のトーンや音楽のタイミングなどもきちんと把握できてい

た。指導自体はスムーズであったものの、子どもたちの動き方が乏しく、動きの工夫や空間の広がりや少ない内容になってしまっていた。その原因として2点考えられる。一つ目は、「イメージを広げる言葉」の欠如である。指導シートおよび、実際の指導言語の抜き出しからも明らかであったが、シートにもその言葉が書かれておらず、実際の指導でも出てこなかった。すなわち、ここでどんな動きを引き出したいのか、指導者の見通し、活動のねらいが定め切れていなかった点に問題があったと推察される。身体表現活動なので、あまりにも指導者が幼児の動きを引っ張りすぎてしまうと、自由さがなくなってしまうことも事実だが、「ここでは、這う動きを引き出したい」とか、「思いっきりゆ〜っくりした動きをしたい」など、動きのねらいを持つことは大事であり、身体表現活動を行う意義にもつながってくるのである。その点をもっと学生たちが認識できるよう、シートの記入時に漏れのないようにする工夫をすること、そして、指導法において認識を深める内容を提示することがまずは第一の課題である。

二点目として、明らかに出てこなかった言葉がけが、「言語化」および「承認する」言葉である。指導者がじっくりと子どもたちの動きを見る時間が確保されていなかったため、指導者や子どもたちが互いの動きを見たり、共感したりする場面がなかった。身体表現活動では、認めてもらうことはとても大事であり、認めてもらうことで自信になり、次の活動へも意欲をもって取り組んでいくのである。この意義がしっかりと感じ取れていなかったことが明らかになり、この点をもっと強調すべきであった。

身体表現活動の言葉がけの分類表（資料1）と照らし合わせた場合の、「イメージの拡大」「動きの拡大」「言語化」「承認」といった言葉がけが不足していることが明らかになった。こういった指導では、流れだけを追いかけていく形になっており、身体表現活動の特性に子どもたちが触れられず、活動内容としては乏しいものになってしまう。よって、指導シートに記入を終えた後、見直しの観点として、指導の流れの表それに沿った言葉の分類表（資料1）と記入したシートとを見比べ、不足している言葉がけはないか、幼児の動きをしっかりとみることができているかなどといった点を確認し、修正していくことが大切になってくることがわかった。さらに、ここで引き出したい動きはなにかを、記入する欄を設けるなどし、主活動から子どもたちに経験させたい動きを明確化することも重要であることがわかった。

## まとめ

今回の結果と考察から、指導シート自体を用いて授業実践を行うという内容には、一定の学びを深める効果があることがわかった。効果としてみられたのは、①指導の流れをつかむことができる、②言葉がけの大切さに気付くことができる、③幼児の動きを予想することの大切さに気付くことができる、④指導シートの書き方を学ぶことができるといった点であろう。しかし、これは、指導案でも十分なことであり、あえて指導シートを使用す

るのは、身体表現遊びにおける、言葉がけ・問いかけが大きな役割を持っているからである。その点をふまえ、今後の課題として以下の3点が考えられる。

- (1) イメージの拡大、動きの拡大の言葉がけは非常に大切なことであり、この点の問いかけをしっかりとすることで生き生きとした活動に展開できる可能性が高い。その点の問いかけ・言葉がけを書き入れることを留意させる。
- (2) 指導者は動きのねらいをしっかりと持ち、引き出したい動きに即した言葉を考えておくことが大切である。
- (3) 表現を見る、という時間の確保、そして承認することの大切さについての理解を持ち、みんなで共感しあう時間を持つ工夫について指導する。

学生たちのような初心者が、身体表現活動を行う上でひとつの指標、助けになる教材として、指導シートの完成を目指している。今回のこの課題を踏まえ、指導シートの改善点も見えてきた。

- a) 活動のねらいを明記し、引き出したい動きを記入する欄を設ける
- b) 指導の流れと分類表から、重要な言葉がけが指導シートに明記されていないといったことがないか確認できるような欄や、記号を検討する。
- c) イメージを広げる言葉や、褒め言葉の具体例について実際の指導や映像などを見てみんなで出し合う時間を作り、具体的な言葉案をたくさん集め実践に生かしていく。
- d) 記入欄の幅を再検討することで、記入しやすく、見やすいようにする。

今回の研究結果を生かし、より活用しやすい指導シートを完成させ、設定保育でも日常の保育の中でも、身体表現活動をいつでも行うことができる指導者の育成に努めていきたい。

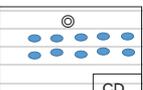
## 引用・参考文献

- 1) 田島美穂 (編) (2017) 平成 29 年告示幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領. (株)チャイルド社 (東京)
- 2) 高野牧子 (編・著) (2015) うきうきわくわく身体表現あそび－豊かに広げよう！子どもの表現世界－. 同文書院 (東京)
- 3) 塩崎みづほ (2016) 身体表現遊びの効果的な指導法をさぐる－言葉がけの分類に着目して－. 秋草学園短期大学紀要 (33). pp.173-182
- 4) 小松 恵理子, 梶 ちか子. (2013) 幼児の身体表現の効果的指導方法に関する研究 : 保育・言葉掛けプランニングシート作成の観点から . 鹿児島女子短期大学紀要 (48) pp.69-79

資料 1 指導の流れと言葉がけの分類表

順番	指導の流れ	記号	言葉がけの分類名	分類の説明
①	様々な環境との関わりで感動・気付き・発見・心が動かされ、表現したい気持ちにさせる	a	質問	具体的な答えを引き出す
		b	誘導	一緒にやろうと誘ったり、保育者の気持ちを伝えたりする
②	表現したいことの特徴に気付かせる	c	イメージの拡大	表現したいものの特徴に気付かせ、イメージを広げる
		d	動きの拡大	擬音・擬態・擬声語で動きを引き出す
③	題材になりきる、表現体になる⇒動き出しのきっかけ	e	提案	活動の切り替えを提案する
④	表現体になりきって動き続ける(動きの反復・動きのリズム)＝子どもの動きを言葉にしてほめる・認める	f	言語化	幼児の動きを言葉で表す
⑤	題材の違った面に気付かせる、子どもが気付かない側面に気付かせる←工夫ある子どもの動きを見つけ、他児に気付かせる	g	承認	子どもの動きを見つけてほめることで、自信をもたせたり、友達の動きに気付かせ、新しい動きの発見につなげる

資料 2 学生の指導シート①

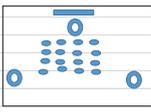
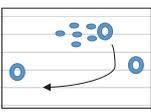
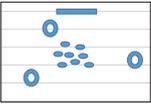
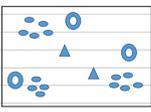
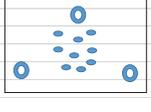
活動名	担当者名	実施日	シ:指示語、セ:説明、ホ:褒め言葉...			
時間	環境構成	保育者の言葉	声のトーンや保育者の動きなど	子どもの動き	音楽	備考
0	 <p>◎保育者 ●子ども</p>  <p>ルートの説明時の言葉を記入</p>	<p>シ: はい、みなさん立ちましょう! はい、座りましょう。 はい、静かに立ちましょう! はい、座りま.....せん。 そのまま電車になって先生の所に集まれ~ はい、そのまま、電車がとうちゃくです。</p> <p>セ: 実はね、園長先生がこのクラスだけに宝の地図をくれたの 他のクラスの子には「シ~」秘密だよ じゃじゃやーん! 宝の地図です。 さっそく開いて見てみよっか。 ー開きながら あ! これはネズミさんの好きなチーズ。。。? 先生間違えて地図じゃなくてチーズ持ってきちゃった もう一つあるから、次こそは大丈夫! じゃじゃーん ー開きながら 次はちゃんと地図でした~ みんなのお宝どこにあるかわかる? そうだね、真ん中にあるね。 シ: お宝を探しに行くには、まず列車に乗って行かなければいけないんだって それじゃあ、宝の地図を持って、列車に乗って出発だ ~指導者も一緒になって活動~</p>	<p>一緒に立つ→座る→立つ→ 電車の動きをし、手をあげて呼び集める</p> <p>座る (小さい声) わくわくする感じ</p> <p>背中の方から地図を出し、地図のリボンを外す ポケを入れる チーズを見せる</p> <p>背中の方から地図を出し、地図のリボンを外す 問いかける</p> <p>地図を見せルート伝える</p> <p>立ち上がる</p> <p>列車がどんな道を行くのか、くねくね道、坂道など、動きを楽しむ時間を入れたい</p>	<p>立つ 座る 立つ 電車になり移動 座る</p> <p>ポケに反応する</p> <p>答える</p> <p>立ち上がる</p>		<p>保育者の周りに集まり座る</p> <p>地図はみんなが見える位置にあげる</p>
	<p>「承認」の言葉、「イメージが広がる言葉」「共感」の言葉を記入</p>	<p>シ: みんな次は山の洞くつを歩いていよ 洞くつの中は暗いから、コウモリさんになったり、おしりに光がついているホタルさんになったり、いろんな動物になっていこうか! よーし、洞くつからぬけだすよー!</p>	<p>自由に思い思いに動く</p> <p>洞くつのいろいろな動物になる</p> <p>思いつく動物を記入(引き出した動き)</p>	<p>いろいろな動物になる</p>	<p>洞くつBGM</p>	
	<p>海の生き物何がある? 「イメージの拡大」の問いかけ</p>	<p>シ: あ、みんな次は橋をわたるんだって おっとおっと...揺れるね~揺らさないようにそ~っと歩こうね! 次はみんな崖をくだるよ! うわあ~すごい崖だな~。 みんな気をつけてゆっくーり歩いてね! た! た! たいへんだー! みんなうしろから大きな岩が転がってきたぞ~! うわあ~大変だ~海に落ちる~ そうだ みんなクジラさんとかお魚さんとか 海の生き物になれば大丈夫だ!</p>	<p>足や体を自由に動かす 揺れてみたり、走ってみる</p> <p>崖が見えているような驚いているような声がけ (大きい声) 焦って、慌てている様子 (大きい声) 大変な感じ</p> <p>海の生き物になる</p>	<p>保育者の真似をしたり、ゆっくーり歩いたりする</p> <p>思いっきり走り回る 倒れ込む</p> <p>海の生き物になる</p>	<p>橋BGM</p> <p>崖BGM</p> <p>タンバリン強 タンバリンの音に反応する</p>	
	<p>「言語化」の言葉、「承認」の言葉を記入</p>	<p>あれ? あんなところにお宝があったよ シ: そのまま海の生き物でお宝を取りに行こう! やった! お宝見つけたね!</p>	<p>「トビウオ」「カニ」「チンアナゴ」など具体的な名前をあげておく(引き出した動きをもっておく)</p>	<p>喜ぶような感じで</p>		
	<p>時間配分記入</p>	<p>シ: それじゃ次は鳥さんになって保育園に戻って園長先生にお宝見せに行こうね!</p>	<p>どんな鳥になろうかな? 先生は、ツバメ! など具体的に記入</p>	<p>鳥になる</p>	<p>鳥になる</p>	

資料3 学生の指導シート①の実践における言葉がけ

指導者の動きや言葉	幼児役の学生たちの反応
<p>「みなさん立ちましょう！あ！座ってください。みなさん、静かに立ちましょう。すわりま・・・せん。そのまま電車になって、みんな電車になって～白いボードまで出発です。」</p> <p>「はい、座ってください。」</p> <p>実は園長先生がこのクラスのために宝の地図をくれました。他のクラスに、し～！静かにできますか？できるひと～？</p> <p>じゃじゃじゃ～ん！宝の地図、開けます！開けますよ・・・じゃじゃじゃ～ん。あら？これはネズミさんの・・・チーズ。ごめん、先生地図じゃなくて、チーズを持ってきちゃった。次は大丈夫、地図。」</p> <p>（地図をボードに貼る）</p> <p>「これから列車に乗って、洞窟に入って行って、橋を渡って、下って、海、海を渡るときは、好きなものになって。船に乗ったりお魚になったり、していいよ。もしかしたら、みんないい子だったら、クジラさんが出てくるかもしれないよ。今から列車に乗って、宝を探しに行きます。」</p> <p>「立ってください！」</p> <p>「じゃあ、最初はこの地図を持ってしゅっぱ～つ！」</p> <p>「列車に乗ってくださ～い。」</p> <p>（音楽かかる）</p> <p>「わ～ここが洞窟だよ。まっくらだから、お尻が光る蛍さんになったり、コウモリになっていこう。」</p> <p>「みんな～そろそろ次のところがみえてきたよ。次は橋を渡ろう。ゆっくりわたるよ。」</p> <p>「速く行こう」（小走りで一周する）</p> <p>「みんな、崖があるよ。どうやって渡る？」</p> <p>「あ！みんな大変！大きな岩が来たよ！」</p> <p>（タンバリンを鳴らしながら、走って逃げる）</p> <p>「みんな大変！海に落ちちゃった～。今島にいるってことは、クジラが助けてくれたんだ～。クジラさんが助けてくれたんだけど・・・」</p>	<p>指導者の声に合わせて、立つ。座る、立つ。電車の手をしながらだらだとボードのところまでついていく</p> <p>座る</p> <p>笑う</p> <p>地図を興味深そうに眺めている</p> <p>指導者の後ろについて、1周速足で周る。</p> <p>お尻に手をあててグーパーしながら進んだり、コウモリのつもりで手を広げたりして進む。似たような動きが多く、全体的にだらだらとしている。</p> <p>先生の真似をしながら、揺れる様子でふらふらしながら橋を渡っている様子で歩く。</p> <p>「せんせ～、速くわたってください～い」</p> <p>「わかんない～い」</p> <p>「は～い！ロープ使う、あ！ユニコーンにのりた～い」</p> <p>きゃ～きゃ～言いながら走って周る</p> <p>指導者の真似をして、大きくジャンプして座る。</p>

<p>あ！見てあんなところにお宝がある。海のお魚になって取りにいこっか？</p> <p>好きな動物になってください。先生はお魚になろうかな～。」</p> <p>みんな見つけられてよかったね。園長先生に見せに、鳥さんになって保育園へ戻ろうか。鳥さんになりま～す。ツバメで～す。</p> <p>おわります。</p>	<p>手をひらひら動かしながら移動する学生、ただ歩いている学生がいる</p> <p>たらたらと動いている。</p>
---	---

資料 4 学生の指導シート②

活動名「スイミーごっこ」	担当者名	実施日	シ:指示語、セ:説明、ホ:褒め言葉...				
時間(分)	環境構成	保育者の言葉	声のトーンや保育者の動きなど	子どもの動き	音楽	備考	
0	場所: ホール 	シ:先生の近くに小さく集まって おやま座り!!座れよ、ほい!!  皆、スイミーという絵本知ってるかな? スイミーというお話は、たくさんのお魚が出てきます  シ:そこで今日は、皆でたくさんのお魚になってみよう と思います 最初は、皆でスイミーになろう!! 立てよ、ほい!!	(声のトーン)大きく  若干間を置く 絵を見せる  絵を見ながらスイミーの世界に連れていく ような問いかけをする  (声のトーン)大きく、ワクワクする感じ	座る  応える 「知ってるー！」  立つ		最初は整列  絵を見せるため絵 を用意しておく →ホワイトボードを 使用するので磁石	
	子ども 担当保育者 ホワイトボード 	じゃあ、スイミーになって広い海を泳ごう!! ホ:元気なスイミーだね。かっこいいね!! 岩に隠れているスイミーもいるね!!  シ:よし、皆で岩に隠れるように小さくなってみよう!! #NAME?	動きのイメージの 言葉が欲しい  スイミーの手本をする 子どもたちが自由に動いているところ を回って歩く  静かにさせる (声のトーン)大きいから少しずつ小さ く	大きく動く →保育者と同じ動きを する  小さい体勢になって 隠れる →動きを止める		ホワイトボードは、 走り回る時危険だ から、説明したら、 直ぐ寄せる	
		じゃあ、次はウナギになってみよう!! ウナギは小さいのもいれば、大きいのもいるね 岩から出てきて近くのお友達とウナギになってみよう ホ:大きいね！長いね!!	他の子どもたちにも見るよう促 す声掛けもあるよ	1人または2人で自由 に表現する	流す		
5' 30	⇒ホワイトボードで絵を 見せるようにする。  イメージを広げる問いか けが欲しい。どんなのが いるかな？誰が？誰 う？不気味な動き？な ど  ▲ スイミー役の子 	シ:じゃあ、次はクラゲになってみよう!!今一緒にいる お友達でもいいし、隣のお友達と一緒に、クラ ゲになろう!! ホ:フワフワしてるね!!ゆっくり動いてるね！  シ:じゃあ、次は、また近くのお友達と一緒に みたこともない魚になってみよう!!お友達と考えると、 見たこともない魚になってね!! ホ:目が大きいね！くるくるまわってるね！  シ:さあみんな、いろんな魚が出てきたね。 最後に、冒険しようと思うの。スイミーやりたい子 いる？ スイミーやる子以外はそのまま!!  今からスイミーの冒険を始めるよ!! どんな魚がいるか探してみよう!! 見つけたら、お友達になって大きい魚の群をつつ て、一緒に泳ごう!! ホ:かっこいい魚がいたね!!すてきだね!!  シ:さあ、これで大きい魚になりました!! 最後にみんなで恐ろしいマグロを追い払ってみよう!! 先生がマグロをやるので、先生を追いかけね。	(声のトーン)大きく、やわらかく  動きのイメージの言葉がけ。 保育者の動きを記入  (声のトーン)大きく、ワクワクする感じ  保育者は違う動きやビョ ン跳ぶ動きなどしてみる  (声のトーン)大きく  (声のトーン)大きく、ワクワクする感じ  (声のトーン)大きく もどいた位置に戻れるように動く	1人または2人のまま 自由に表現する  2人になって自由に表 現する  答える 「はーし!!」  スイミー役の子は、保 育者と一緒に見たこと もない魚を探しに行く  保育者を追いかける	流す  流す	イメージのわかない 子どもたちにアドバ イスする	
10' 00		シ:恐ろしいマグロがいなくなったね!!今日は、たく さんのお魚が見れて良かったね。スイミーも他のお魚 さんたちも疲れたから、休もうね!!おやま座りで座れ よほい!!	(声のトーン)大きく 静かな感じ	座る		最初は整列だが、 同じようには並べな いので、保育者が 周りを囲むようにし てつく	

